



はなのき通信

2024年3月 発行 第156号

編集・発行：あいち国際交流はなのき会

URL <http://www.aichinet.ne.jp/~hananoki/>

Eメール hananoki@aichinet.ne.jp

＝先進技術の社会実装を実感したシンガポール＝

会長 金田文子

不安定な社会情勢の中でも、海外スタディーツアーを再開でき、大過なく終了の報告ができることを有難く思います。

社会実装は、研究開発によって得られた成果を社会問題解決のために応用展開し、広く普及させることを意味し、我が国では、2013年「科学技術イノベーション総合戦略」策定以降用いられている概念です。シンガポールの社会実装の様相は、参加者の「想像以上の発展ぶりに驚いた、やはり現地に来てみるものだ」との感想に表現されています。一般観光客向けの資源が実は、市民の生活の質を担保する、或いは雇用を生み、経済活動を促進するなどよく練られた施策で、市民に受容されてスピード感ある展開が図られていることを見学先の事象から察することができました。活動報告書掲載の参加者レポートの随所からお汲み取りください。



スタディーツアー2023

シンガポール・グリーンプラン2030

10月25日～29日に、11名+1名のメンバーで行ってきました！

ASEAN 諸国におけるビジネスの中心地というイメージとは異なり、ビルが建ち並ぶ街中でも緑を感じる国であった。2030年までに取り組むべき環境政策として「シンガポール・グリーンプラン2030」が押し進められている。具体的には、自然の中の都市の創出、持続可能な生活の推進、クリーンエネルギーの活用、グリーン経済の発展、レジリエントな未来の構築等である。一見、よくある言葉の羅列のように感じるが実際シンガポールでは、徹底した取り組みが国民の理解と協力のもと、実施されていた。訪問したマリーナエリアにあるマリーナバラージは、最大の貯水池とダムがあり、海水から淡水化して輸入に頼らない取り組みをしている。さらに NEWater（ニューウォーター）として使用済みの水を飲み水にする高度な技術もある。他にも都市計画が歴史的な景観との調和を保ちながら、生活環境向上のための緑化政策と両輪で施行されている。生活の中にある緑化は、気候変動への影響に対しての政策である。

折しもツアー後にドバイで、COP28（国連気候変動枠組条約第28回締約国会議）が開かれ、「化石燃料からの脱却を加速させる」という言葉が合意された。28年間で初めて化石燃料に言及したもので、それにより日本や諸外国は原子力に大きく舵を切ることになりそうだ。地震の多い日本にとってリスクの高い原子力頼みでいいのか、危機感を覚える。対してシンガポールは、2021年から着実に将来を見据えた対策を進めている。

初めてスタディーツアーに参加させていただいたが、とても勉強になり、日本を外側から考えることができる視点ももつことになり、嬉しく思う。

小鹿 登美



マリーナバラージでの説明

はなのきセミナーⅢ

防災を通じた共生

日時：12月23日（土）14:00～15:30

会場：JICA 中部なごや地球広場（セミナールーム A）

「愛知県海外青年協力隊を支援する会」との共同講演会

年末で人の往来が多かった名古屋駅。野外コンサートの音、クリスマスツリーなどを道すがら楽しみました。そんな中、お二人の講演を通じて、日本が平和だからこそ支援ができると強く感じました。

角田尚章氏：（2018年4月から2年間、JICA海外協力隊の防災・災害対策隊員として、フィリピンへ赴任）「フレンドリーな国民性からすぐになじめると思ったが、住民の方との距離を縮めることがそう簡単ではなかった。地域の自治会長さん、学校の校長先生などと知り合う中で、活動ができるようになった。ルールが敷かれているわけではない。」ことを伺い、現地の方といかに関係性を作るかが大変大切であることがわかった。

近藤ひろ子氏：（教職中に文部科学省から「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の研究嘱託、JICA防災教育専門家として各国で支援活動。）ひとつのテーマについて、研究及び活動を長年継続され、近藤氏の講演に深さを感じた。防災に限らず、現地での連携が取り組みの入口として、大変重要と感じた。また、75年以上戦争をしていない日本は尊敬されており、日本だからこそという部分があり信頼されているというのを伺い大変嬉しく思った。日本国民は戦争をしないという底辺での結束力があるようも感じた。



※講演者の角田氏から「こんなにたくさんの人を集めていただきありがとうございます。」とお礼の言葉がありました。昨今、たくさんのイベントがあり、なかなか人を集めるのが大変だとおっしゃっていました。はなのき会から15名の参加で大変喜んでいただきました。はなのきパワーを感じます。

名古屋ブロック 向井あつ子

学習会・ミャンマー支援

やまぬ抵抗 ミャンマークーデター2年

日時：10月21日（土）13:30～15:30

会場：国際プラザ団体交流室（大）

講師：長谷川友子氏

2021年2月以降のミャンマーでの民主化クーデターを覚えておられるだろうか。情勢不安は今現在も続いており、武力衝突、空爆、無差別砲撃、放火、インフラの破壊により、多くの民間人の命と生活が危険にさらされているという。日本ではロシアのウクライナ侵攻に目が行きがちだが、ミャンマーも忘れず支援してほしいとの、長谷川さんの熱いメッセージが込められた学習会だった。

会には愛知県内に住むミャンマーの避難民3人の若者も同席し、母国の窮状を訴えた。毎週日曜日夕方に名古屋駅で活動をしているが、以前ほど注目を浴びなくなっているという。会場で募金活動を行い、23,500円を彼らに手渡すことができた。

11月中旬には長谷川友子さんの写真展が愛知県美術館地下ギャラリーで開催された。民主化を祈り、千羽鶴を折る企画もあり、はなのき会会員も多数訪れた。

名古屋ブロック 山根みちよ



「こんにちは」から始まる国際交流 かにえ国際交流友の会 創立 30 周年記念講演

1993（平成 5 年）4 月に発足、昨年 11 月に創立 30 周年記念講演会を開催致しました。この 30 年、地元の企業や商店などから多大なご支援をいただきながら、対象の制限なしで、多くのイベントや講演、講座を開催、特に町内外の外国人に無料で日本語教室を 30 年間続けてこられたことには感慨深いものがあります。

基調講演「今を生きる！」は全国で数少ない外国籍の公立高校正教員・伊木ロドリゴ氏を迎え、生き生きとした話しぶりで来場者すべてを魅了し、国際交流の意義を感じさせられたことは今後の大きな力となりました。

尾張ブロック 谷中ひさ子



日本語教室では毎年恒例の
新年書初め大会



Bangladesh 教育支援の会 (BESS)

令和 5 年 11 月 7 日から 12 日まで 6 人の会員で現地の学校を訪問し、子供たちや先生方と楽しく有意義な交流をしてきました。

※私は Bangladesh の訪問は 11 回目ですが他の 5 人は初めてで Bangladesh の文化、交通、食事など初めてのことばかりで新鮮な体験になったようです。



尾張ブロック

森崎芳子

豊山国際交流の会

☆食の交流 (モンゴル編)

9 月 23 日 (土) 講師に高橋 Shinee さん (江南市在住) をお迎えして、モンゴル料理のツイワシ (モンゴル焼きそば) とシュル (野菜スープ) を作りました。4 年振りの食の交流ということで、麵から手作りし、どのグループも楽しく調理していました。

後半では、モンゴル特有の塩気の効いたミルクティーを飲みながら、モンゴルの話 (都市部や遊牧の生活、文化など) をしていただきました。



尾張ブロック 浅井恵子

知多ブロック研修会

『健康・環境を維持するための 食育事業の推進を』

日時：2024 年 2 月 12 日 10 : 00 ~ 13 : 00
場所：大野町 きょう屋
講師：井上恭子 (はなのき会員・常滑市議会議員)

農薬や化学肥料が全国的に広まっている現在、食育教育の一環としてオーガニック食材を提供することをお勧めします。お母さん達には特に重要です。自然との共生や食品の生産過程を理解し健康的食習慣を身につけましょう。今、食と環境と農業を一体的にした教育で、みどりの食料システム戦略を発動し、オーガニック給食を進めている 56 市町村があり、愛知県ではあま市、稲沢市、犬山市、東郷町、名古屋市です。全国に普及する様に祈ります。

知多ブロック 鈴木紀代

会員（ドイツ班）からの便り



ドイツ 2 班 水野順子

1989年10月、西ドイツに10人で派遣され10日間の研修でした。

男女平等を基調とする婦人問題を始め、青少年、消費者、福祉など多方面にわたっての訪問。離婚率に驚き、ごみの分別収集に頷き、移民問題に心を痛め、高齢社会に心を寄せました。帰国して2週間後の11月9日ベルリンの壁が壊されたことに歴史を感じました。

帰国後も毎年集まっていましたが、コロナ禍で途絶え、昨年10月に久しぶりに会いました。旅立たれた神谷さん、佐藤さんに黙祷した後、34年前の若い写真を見ながらの話題はつきませんでした。

世界には、ウクライナなど今なお平和が脅かされている場所があります。はなのき会として学び続ける機会を大切にしていこうと思います。



1989.11.19 フランクフルト市庁舎訪問

お知らせ



東三河ブロック伊藤久代様の紀行文集(A4版 245頁)

「世界旅行記のダイジェスト版です。手軽に読める内容です。ご希望の方には残部をお分けします。」(著者より)

2024年度 総会

日時：2024年4月13日(土) 開会 10:00~12:20 (開園：9:30~ 受付9:40~)

場所：安城産業文化公園デンパーク会場 多目的ホール(温室フローラルプレイス)

第1部 総会 10:00 ~ 11:10

第2部 講演会 11:20 ~ 12:20 講師：加藤純子氏

(C.P.A認定チーズプロフェッショナル・J.S.A認定ワインエキスパート)

「ヨーロッパのチーズ事情」※講演とチーズの試食があります。

募金のご協力ありがとうございました!!

♥ 日本赤十字社名古屋支社を通じ能登半島地震、被災者の生活再建に40,306円を寄付。

♥ 昨年に続き、日本ウクライナ文化協会に募金25,000円を寄付しました。(2024年2月16日)

編集後記：H3ロケットの打ち上げ成功、生成AIなど新技術のニュースを聞くたび社会の大きな変革を感じています。今年度も皆様に多彩な原稿をお寄せいただきました。書記一同お礼申し上げます。

2023年度書記 杉浦・小鹿・森崎